

ことばの力のものさし 【小1～小2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【小1～小2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ 確認シート									
(立 学校) 児童生徒名()									
聞く・話す			読む			書く			
確認項目		前期 / 後期	確認事項		前期 / 後期	確認項目		前期 / 後期	
ステップ5	5	身近な場面や関心のある話題について、日常的な語彙・表現を幅広く使って、対話をしたり自分から話したりできる。	5	低学年向けのテキスト(身近で興味のあるトピックで、短いストーリーの挿絵つきの物語文や、写真・イラストが豊富なく短い説明文(DLA<読む>の「花いっぱいになあれ!など))を、意味のまとまりや文館で区切りながら、ややゆっくりでも安定した速さで読める。	5	おおむね正確な表記ができる(撥音・長音・拗音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、既習で同じのある漢字、一字下げ、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など)。			
	5	高頻度の接続表現(例:～から、～て、～でも)を活用して、単文や簡単な複文を用いてほぼ誤用なく自由に、話を続けることができる。	5	低学年レベルの漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	5	「です・ます体」を使って文章を書き進められる。			
	5	身近なことや関心のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。	5	文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、単語や文法の意味を考えながら読むことができる(意味がわからない語の前で止まつたり、戻ってきて考えてから語のまとまりで読んだり、区切り方を覚える)。	5	自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現や接続表現(例:～から、～て、～でも)を幅広く使って、単文や重文、簡単な複文などを用いた文章をほぼ誤用なく自由にたくさん書ける。			
	5	相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。			5	書きながら、あるいは書いた後に、読み返したり支援者に読んでもらったりして自分の間違いに気づいて修正できる。			
	※ 音声イメージ(例:「フーって」、「木をビーって切る」)や直接引用(例:謝って→「ごめんなさい」と言って)をよく使って話す。								
ステップ4	4	自分自身や日常的な話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、対話による支援を得て、よく耳にする語彙・表現を使って、単文や簡単な複文で話せる。	4	幼児向けの絵本や図鑑(身近で興味のあるトピックで、ごく短いストーリーの絵本や、文字数の少ないごく簡単な図鑑(DLA<読む>の「ことりと木のは」など))を、おおむね文節や單語で区切りながらゆっくり読める。	4	表記の誤用はあるが、対話文の形式を用いて(例:～したよ)、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、主に単文で短い文章が書ける。			
	4	日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要最低限のやりとりができる(お願いをする[例:「消しゴム貸して」]、説教[例:「あそぼ!」])。	4	長音・拗音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。	4	カタカナがおおむね書ける。			
	※ 音声イメージ(例:「フーって」、「木をビーって切る」)、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すことがある。		4	助詞の特殊読み(「は」「へ」)がおおむねできる。					
	4	カタカナがおおむね読める。		4	指で文字をなぞりながら読むこともある。				
	3	自分自身や日常的な話題について、対話による支援を得て、よく耳にする語彙・表現を使って主に単文でなんとか意味の通じる話ができる。	3	幼児向けのごく短い絵本(表現や内容の繰り返しのある絵本(「おおきなかぶ」、DLA<読む>の「えんそくのおどしもの」など))を、かなりゆっくりと、2・3文字ずつの拾い読みや單語で区切りながら読める。	3	対話による支援を得て、自分に限られた高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、単文が2、3文書ける。			
ステップ3	※ 音声イメージ(例:「フーって」、「木をビーって切る」)、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すことがある。		3	連絡帳や時間割などで毎日使うマーク(例:宿題一し、国語→こ)がわかる。	3	ひらがながおおむね書け、カタカナがいくつか書ける。			
	3	絵や写真を手がかりに、長音・拗音・促音をのぞくひらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。		3	カタカナがいくつか読める。				
	3	ひらがな・カタカナの区別がおおむねできる。		3	ひらがながおおむね読める。				
	3	ひらがながおおむね読める。		3	指で文字をなぞりながら読む。				
	2	自分自身のことなどについて、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、よく耳にする語彙・表現の一部を使って答えることができる(例:「牛好き」「本ある」)。	2	ひらがながいくつか読める。	2	対話による支援を得て、単語を並べて伝えたいことを断片的に書くことができる。			
ステップ2	2	よく使われる定型表現を使って、日直などの係(例:朝・佛りの会の会前会、授業や給食の挨拶)ができる。	2	支援者と一緒に/ 支援者に続いて1文字ずつの拾い読みができる。	2	ひらがながいくつか書ける。			
	2	日常生活や学校生活で簡単な質問(例:持ち物「えんぴつ?」)ができる。	2	本を正しくもって、正しい方向にページをめくることができる。					
	2	覚えたばかりの決まった形を使ってやりとりができる(困りごとを伝える[例:「お腹が痛い」]、お札を買う[例:「借りたがう」]、許可を取る[例:「先生トイレ」])。							
	※ 指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」)を表現するのに→「いだきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。								
	1	自分自身(例:名前・学年・歳など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、限られた単語で答えることができる。	1	学校で目にする日本語の文字に興味を示す。	1	はじめて文字を習得している段階で、一文字一文字確認したり、支援者と話しながらそれをおねじて書こうしたり、文字に対応する音を口に出して言いながらゆっくりと書こうとする。			
ステップ1	1	基本的な挨拶(例:「おはよう」)ができる。	1	自分の名前や学年・組など、自分に関係のある語がわかる。	1	数字や、自分の名前など身近な文字をひらがなまたはカタカナで書ける。			
	※ 指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」)を表現するのに→「いだきます」)、母語を交えながらなんとか伝えようとする。		1	日本語の読み聞かせに興味を示す。	1	書こうとする内容を絵にする場合もある。			
	1	よく耳にする単語やその一部を口にする。			1	1文字に興味を示す。			
	1	質問されても答えずに、沈黙する場合がある。							
	1	指示の意味が理解できなくても、周りの行動を真似たり(例:「起立・礼」)、質問の意味が十分理解できなくても、反応したり(例:「うなずく」)教師や友だちが言ったことをおうむ返ししたりする。							

出典:「ことばの発達と習得のものさし ぱっとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)(https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf)を加工して作成

ことばの力のものさし 【小3～小4段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【小3～小4段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ 確認シート									
(起立 学校)					(児童生徒名)				
聞く・話す			読む		書く				
確認項目		前期	後期	確認事項	前期	後期	確認項目	前期	後期
ステップ6	6 様々な接続表現や指示語などを用いて、まとまり(結束性)がある話ができる。	/	/	6 中学年向けのテキスト(やや長めで座り立てるある、少しの挿絵や振り返名つきの物語文や文章構造がはっきりした写真・イラスト・図表つきの社会・理科の内容の説明文(DLA(読む)の「奥から」など)を、おむね文や意味のまとまりで区切って直書きで読める。	/	/	6 さまざまな接続表現、指示語などを使って、ある程度文や段落のまとまり(結束性)がある文章が書ける。	/	/
	6 教科学習内容の基本的な概念の話(中学年レベル)を既習の基本的な概念語彙・表現を使って話せる。	/	/	6 中学年レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	/	/	6 口語的な表現(例:ちょっと、すごい)が混ざることもあるが、中学年レベルのテキストで使用される概念語彙や低頻度語彙・表現、連体格修飾(例:小説が好きな人、食べたことがない料理)や書きことばらしい文体(例:行って一行き、見ないで一見す)などを使いながら文章が書ける。	/	/
	6 このような話を自然な速さで聞き取ることができる。	/	/	6 電話ができる。	/	/	6 「だ体・である体」を使って文章が書ける。	/	/
ステップ5	5 身近な場面や関心のある話題について、日常的な語彙・表現を幅広く使って、対話をしたり自分から話したりできる。	/	/	5 中学年向けのテキスト(身近で興味のあるトピックで、短いストーリーの接続つきの物語文や、写真・イラストが豊富なぐ短い説明文(DLA(読む)の「花いっぱいになあれ!など)を、意味のまとまりや文節で区切りながら、ややゆっくりでも安定した速さで読める。	/	/	5 おむね正確な書記ができる(母音・長音・拗音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、既習でなじみのある漢字、一字下げ、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など)。	/	/
	5 高頻度の接続表現(例:～から、～て、～でも)を活用して、單文や簡単な複文を用いて疎通用なく自由に、話を続けることができる。	/	/	5 中学年レベルの漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	/	/	5 「です・ます体」を使って文章を書き進められる。	/	/
	5 身近なことや関心のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。	/	/	5 文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、単語や文法の意味を考えながら読むことができる(意味がわからない単語の前で止まったり、戻って見て考えてから語のまとまりで読んだり、区切り方を変える)。	/	/	5 自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現や接続表現(例:～から、～て、～でも)を幅広く使って、單文や重文、簡単な複文などを用いた文章を疎通用なく自由にたくさん書ける。	/	/
ステップ4	5 相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。	/	/	5 電話ができる。	/	/	5 書きながら、あるいは書いた後に、読み返して自分の間違いに気づいて修正できる。	/	/
	※日常的な語彙・表現を使うなどして、概念語彙・表現を補って話すことがある(例:「地球が汚染される」を表現するのに→「地球が大変になる」)。	/	/	4 身近な場面や関心のある話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、日常でよく耳にする単語・表現を使って、單文や簡単な複文で話せる。	/	/	4 書記や文法には誤用があるが、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、重文、簡単な複文を含みつつ主に單文で短い文章が書ける。	/	/
	4 場面に応じて、必要な情報を持ちやとりができる(時間や場所を確認して約束する、理由を伝えて謝るなど)。	/	/	4 中学年レベルの漢字がいくつか読める。	/	/	4		
ステップ3	4 ※音声イメージ(例:「フーって、木をピーって切る」、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すことがある。	/	/	4 指で文字をなぞりながら読むこともある。	/	/	4		
	3 自分自身や日常的な話題について、対話をによる支援を得て、よく耳にする語彙・表現を使って主に單文などと意味の通じる話ができる。	/	/	3 幼児向けの絵本や圖鑑(身近で興味のあるトピックで、ごく短いストーリーの絵本や、文字数の少ないごく簡単な図鑑(DLA(読む)の「これ」と木のはなし」など)を、かなりゆっくりと、おおむね文節や単語で区切りながらゆっくり読める。	/	/	3 対話による支援を得て、自分に関わる高頻度の語彙・表現を繰り返し使い、單文を繋げて短い文章が書ける。	/	/
	3 日常生活や学校生活で、教師や友だちに働きかけるために必要な基礎的のやりとりができる(台風いをする[例:「消しゴム貸して!」]、続う[例:「あそぼ!」])。	/	/	3 長音・拗音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。	/	/	3 ひらがな・カタカナをおおむね区別しながら書くことができる。	/	/
ステップ2	3 ※音声イメージ(例:「フーって」、「木をピーって切る」、指さしやジェスチャー、指示語を使って、語彙・表現の不足を補って話すことがある。	/	/	3 助詞の特殊読み(「は」「へ」)がおおむねできる。	/	/	3		
	2 自分自身のことなどについて、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、よく耳にする語彙・表現の一部を使って答えることができる(例:「牛乳好き」「本ある」)。	/	/	2 カタカナがおおむね読める。	/	/	2		
	2 よく使われる定型表現を使って、日直などの係(例:朝・拂りの会の会食、授業や給食の挨拶)ができる。	/	/	2 ひらがながおおむね読める。	/	/	2		
ステップ1	2 日常生活や学校生活で簡単な質問(例:持ち物「なんびつ?」)ができる。	/	/	2 絵や写真を手がかりに、長音・拗音・促音をのぞくひらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。	/	/	2		
	2 覚えたばかりの決まった形を使ってやりとりができる(囲いごとを伝える[例:「牛膝が痛い!」]、お札を出す[例:「ありがとうございます!」]、許可を取る[例:「先生トイレ!」])。	/	/	2 カタカナがいくつか読める。	/	/	2		
	2 ※指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる!」)を表現するのに→「いただきます!」。母語を交えながらなんとか伝えようとする。	/	/	2 ひらがな・カタカナの区別がおおむねできる。	/	/	2		
ステップ1	1 自分自身(例:名前・学年・歳など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、限られた単語で答えることができる。	/	/	2 ひらがながおおむね読める。	/	/	1		
	1 基本的な挨拶(例:「おはよう」)ができる。	/	/	1 学校で自にする日本語の文字に興味を示す。	/	/	1		
	1 ※指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる!」)を表現するのに→「いただきます!」。母語を交えながらなんとか伝えようとする。	/	/	1 自分の名前や学年・歳など自分に関係のある語がおおむねわかる。	/	/	1		
	1 よく耳にする単語やその一部を口にする。	/	/	1 支援者と一緒に/支援者に統いて、1文字ずつの拾い読みができる。	/	/	1 書こうとする内容を絵にする場合もある。	/	/
	1 質問されても答えずに、沈黙する場合がある。	/	/	1 ひらがながいくつか読める。	/	/	1 文字に興味を示す。	/	/
1	1 指示の意味が理解できなくても、周りの行動を真似たり(例:「起立・礼」)、質問の意味が十分理解できなくても、反応したり(例:うなぐ)教師や友だちが言ったことをうなぎ返したりする。	/	/	1 日本語の読み聞かせに興味を示す。	/	/	1		

出典:「ことばの発達と習得のものさし ぱっとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)(https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf)を加工して作成

ことばの力のものさし 【小5～中2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【小5～中2段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ 確認シート													
(立 学校)													
	聞く・話す		読む		書く		児童生徒名()						
	確認項目	前期 後期	確認事項	前期 後期	確認項目	前期 後期							
ステップ7	高学年から中学レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション、例:〇仲が良い、×仲が近い)といった表現(單語や句)のレパートリーが増え、これらを適切に使える。	7	高学年から中学生向けのテキスト(ライトノベル、情報文、子ども新聞、雑誌、子ども向けインターネット情報など(DLA(読み))の「自然を守る」など)を文や意味のままで区切って、安定した速さで読むに読める。	7	高学年から中学生レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション)といった表現のレパートリーが増え、これらをおもむね適切に使える。								
	相手や場面に応じておもむね適切な教語表現が使える。	7	高学年から中学生レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	7	高学年から中学生レベルの既習で使用される概念語彙や低頻度語彙、漢字・漢語など(例:普通体、です・ます体)を選択して話せる。								
	目的(例:プレセッション、フォーマルな場面など)に応じて話題(普通体、です・ます体)を選択して話せる。		※母語での読み力が高い場合、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。										
	教科学習内容の抽象的な概念(高学年・中学校レベル)を既習の抽象的な概念語彙・表現を使って話せる。												
	このような話を自然な速さで聞き取ることができる。												
ステップ6	様々な接続表現や指示語などを用いて、まとまり(結束性)がある話ができる。	8	中学生向けのテキスト(やや長めで章立てのある、少しの挿絵や振り仮名つきの物語文や文章構造がはっきりした写真・イラスト・図表つきの社会・理科的内容の説明文(DLA(読み))の「良がらない」など)や年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構造が中学生レベルのテキストを、おおむね文や意味のままで区切って流暢に読める。	8	さまざまな接続表現、指示語などを使って、ある程度文や段落のまとまり(結束性)がある文章が書ける。								
	教科学習内容の抽象的な概念の話(高学年・中学校レベル)を既習の基本的な概念語彙・表現(中学生レベル)で代用して話せる。	8	中学生レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	8	口語的な表現(例:ちょっと、すごい)が混ざることもあるが、中学生レベルのテキストで使用される概念語彙や低頻度語彙・表現、連体修飾語(例: 小説が好きなん人、食べたことがない料理)や書きこよばらしい文体(例: 行って→行き、見ないで→見す)などを使いながら文章が書ける。								
	このような話を少しゆっくりの速さで聞き取ることができる。	8	默読ができる。	8	「だべ、である体」を使って文章が書ける。								
	※母語での読み力が高い場合、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。												
ステップ5	身近な場面や関心のある話題について、日常的な語彙・表現を幅広く使って、対話をしたり自分から話したりできる。	5	日常で用いられる幅広い語彙や單文・複文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキスト(DLA(読み))の「あつまれば、幸運など」や、年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構造が低学年レベルのテキストを読みのままでやや文脉で区切りながら、ややゆっくりでも安定した速さで読める。	5	おおむね正確な表記ができる(發音・長音・拗音・促音やひらがな・カタカナの使い分け、既習でないのみの漢字、一字下げ、句読点、引用符、助詞の「は」「を」「へ」など)。								
	高頻度の接続表現(例:～から、～て、でも)を活用して、單文や簡単な複文を用いて既習用なく自由に、話を続けることができる。	5	低学年レベル/日常で用いられる既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	5	「です・ます体」を使って文章を書き進められる。								
	身近なことや関心のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。	5	※母語での読み力が高い場合、默読の方がよく理解できたり、音読が流暢でなくても、このレベルのテキストを読んで理解できる。	5	自分自身にとって身近な場面や関心のある話題について、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現や接続表現(例:～から、～て、でも)を幅広く使って、單文や重文、簡単な複文などを用いた文章をほぼ既習用なく自由にたくさん書ける。								
	相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。			5	書きながら、あるいは書いた後に、読み返して自分の間違いに気づいて修正できる。								
	※日常的な語彙・表現を使なじして、概念語彙・表現を補って話すことがある(例:「地球が汚染される」を表現するのに「地球が大変になる」)。			※母語での書き力が高い場合、文法や語彙の選択に慣用があるが、単文や重文、簡単な複文を用いた文章を自由に書ける。									
ステップ4	身近な場面や関心のある話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、既習の語彙・表現・文型を使って、單文や簡単な複文で話せる。	4	身近なトピックについて、日常で用いられる語句や單文・基本的な複文で書かれた、イラストや写真が中心の短いテキストを、おおむね文節や單語で区切りながらゆっくり読める。	4	単語や文法には慣用があるが、日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現を繰り返し使って、重文、簡単な複文を含みつつも単文で短い文章が書ける。								
	場面に応じて、必要な情報を含むやりとりができる(時間や場所を確認して約束する、理由を伝えて謝るなど)。	4	日常で用いられる基本的な既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	4	※母語での書き力が高い場合、文法や語彙の選択に慣用があるが、既習の語彙・表現や文型を使って、單文や重文、簡単な複文を用いた文章が書ける。								
	※簡単な表現、言い回し(例:楽器を演奏する=楽器をやる)や母語を活用して、語彙・表現の不足を補って話すことがある。		文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、單語や文法の意味を覚えるから読むことができる(意味がわからない語の前でも止まりたり、戻ってきて考えてから語のままで読みたり、区切り方を変える)。	4									
				4									
				4									
ステップ3	身近な場面や関心のある話題について、通用(形容詞や動詞など、述語の活用や助詞)があっても、既習の基本的な語彙・表現・文型を使って、主に單文でなんとか意味の通じる話ができる。	3	身近なトピックについて、日常で用いられる基本的な語句や單文で書かれた、イラストや写真が中心の短いテキスト(DLA(読み))の「ハハの手」などを、かなりゆっくりと、おおむね文節や單語で区切りながら読める。	3	対話による支援を骨で、自分に関する高頻度の語彙・表現を繰り返し使い、單文を連ねて短い文章が書ける。								
	日常生活や学校生活で、教師や友だちに興味かけるために必要な最低限のやり取りができる。(お風呂をする例:「消しごムを貸してください」、説明例:「一緒に沸ろう!」)。	3	日常で用いられるごく基本的な既習の漢字がいくつか読める。	3	※母語での書き力が高い場合、支援なしで基本的な既習の語彙・表現を使って、單文を連ねて文章が書ける。								
	※指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」)を表現するのに「いただきます」、母語を交えながらなんとか伝えようとする。		3	助詞の特殊読み(「は」「へ」)がおおむねできる。									
				3									
				3									
ステップ2	自分自身のことなど(家族の構成、好きなもの/こと、将来の夢、日常生活など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、既習の語彙・句や單文、よく使われる表現を使って答えることができる。	2	いつかの既習の定型表現や語句、聞いた文型を用いて書かれて、イラストや写真が中心の短いテキスト(DLA(読み))の「カラスと水」などを、2~3文字ずつの長い読みや單語で区切りながら、なんとか読める。	2	モデル文を参考にして、自分自身にとって身近な話題(自分がいる家族の紹介、好きなもの、休みの日、将来の夢など)についていくつか文が書ける。								
	日常生活や学校生活で、教師や友だちに興味かけるために必要な最低限のやり取りができる。	2	長音・拗音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な單語がおおむね読める。	2									
	覚えたばかりの決まった形を使ってやりとりができる(因りごとを伝える例:「お腹が痛い」、台札を言う例:「ありがとうございます!」、許可を取る例:「先生、トイレに行かせてもらいますか?」)。	2	カタカナがいくつか読める。										
ステップ1	自分自身のことなど(例:名前・学年・歳など)について、教師や友だちなどのゆっくりはっきりした質問に、聞かれた単語で答えることができる。	1	自分の名前や学年・組、校名など、自分に関係のある語がおおむねわかる。	1	ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら知っている単語を書くことができる。								
	基本的な挨拶(例:「おはよう」)ができる。	1	連絡帳や時間割などで毎日使うマーク(例:宿題→宿、国語→国)がわかる。	1	母語の単語や表現そのままでひらがな・カタカナを使って書こうとする。(例:「かんと(country)」)								
	※指さしやジェスチャー、指示語(例:これ)、会話表現(例:「朝ご飯を食べる」)を表現するのに「いただきます」、母語を交えながらなんとか伝えようとする。		支援者と一緒に/支援者に統いて、1文字ずつの長い読みができる。										
	両りの状況を見たり、既存の知識を使って、相手が何を言っているのか推測したりしようとする。	1	ひらがながおおむね読める。	1									
	両りの状況に合わせて行動する(例:教科書を取り出す)。	1	日本語にひらがな・カタカナ・漢字の区別があることがわかる。	1									
出典:「ことばの発達と習得のものさし ぱっとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)(https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf)を加工して作成													

ことばの力のものさし 【中3～高校段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ確認シート

【中3～高校段階】日本語固有の知識・技能の習得ステップ				確認シート			
		(立 学校)		(児童生徒名)			
ステップ	確認項目	聞く・話す	読む	書く	確認項目	前期 後期	
		前期 後期	前期 後期	前期 後期			
ステップ8	教科書内容の抽象的な概念の話、実社会に関わる話題の話など(中学・高校レベル)を既習の抽象的な概念語彙・表現を幅広く使って話せる。	8 中学生から高校生向けのテキスト(小説・文学作品、論説文、新聞・雑誌の報道文、インターネット情報などの幅広いジャンル(DLA(読み))の「水の東西」など)を文や意味のまとまりで区切って、安定した速さで流暢に読める。	8 抽象的な概念語彙・既習反語彙・漢熟語を使って中学生・高校生レベルの説明文や論説文、論評文、創作的な作品などが書ける。				
	このような話を自然な速さで聞き取ることができる。	8 中学・高校レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	8 書きこどらしい表現や文法・身近表現や名詞句の活用など、及び慣習的な表現技法(比喩など)を使用して文章が書ける。				
				8 故事などの相手や場に応じたことば遣いを選択的に使って文章が書ける。			
ステップ7	高学年から中学レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション)、例〇仲が良い、×仲が近いといった表現(单語や句)のレパートリーが増え、これらを適切に使える。	7 高学年から中学生向けのテキスト(ライトノベル、情報文、子ども新聞・雑誌、子ども向けインターネット情報など(DLA(読み))の「自然を守る」など)を文や意味のまとまりで区切って、安定した速さで流暢に読める。	7 高学年から中学生レベルの既習の慣用的な表現やよく使われる語の組み合わせ(コロケーション)といった表現のパートナーが増え、これらをおおむね適切に選択する。				
	相手や場面に応じておおむね適切な敬語表現が使える。	7 高学年から中学生レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	7 高学年から中学生レベルの既習で使用的な概念語彙や既習度語彙・漢熟語などを選択して、一貫して書きこどらしい文章が書ける。				
	目的(例 フレゼン・ーション、フォーマルな場面など)に応じて話題(普通体、ですます体)を選択して話せる。	※母語での読み力が高い場合、言説が流暢でなくとも、このレベルのテキストを読んで理解できる。	※母語での書き力が高い場合、誤用があっても書きこどらしい文章が書ける。				
	教科書内容の抽象的な概念の話(高学年・中学レベル)を既習の抽象的な概念語彙・表現を使って話せる。						
ステップ6	このような話を自然な速さで聞き取ることができる。						
	様々な接続表現や指示語などを用いて、まとまり(結束性)がある話ができる。	6 中学生向けのテキスト(や長めで立ててある。少しの掛け声や振り返りつきの物語文や文章がはっきりした写真・イラスト・図表つきの社会・理科の内容の説明文(DLA(読み))の「良がん」など)や年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構造が中学生レベルのテキストを、おおむね文や意味のまとまりで区切って流暢に読める。	6 さまざまな接続表現、指示語などを使って、ある程度文や段落のまとまり(結束性)がある文章が書ける。				
	教科書内容の抽象的な概念の話(高学年・中学生レベル)を既習の基本的な概念語彙・表現(中学生レベル)で代用して話せる。	6 中学生レベルの既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	6 口語的な表現(例 ちょっと、すごい)が混ざることもあるが、中学生レベルのテキストで使用される概念語彙や既習度語彙・表現、連体修飾節(例 小説が好きな人、食べたことがない料理)や書きこどらしい文体(例 行って→行き、見ないで→見る)などを使いながら文章が書ける。				
ステップ5	このような話を少しゆっくりの速さで聞き取ることができる。	6 黙読ができる。	6 「だ体・である体」を使って文章が書ける。				
		※母語での読み力が高い場合、言説が流暢でなくとも、このレベルのテキストを読んで理解できる。	※母語での書き力が高い場合、誤用があつても書きこどらしい文章が書ける。				
	身近な場面や心鬧のある話題について、日常的な会話・表現を幅広く使って、対話をしたり自分から話したりできる。	5 日常用で用いられる幅広い語彙や單文・複文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキスト(DLA(読み))の「あつまえ、楽器」など)や年齢相応のトピックで、語彙・表現や文章構造が低学年レベルのテキストを意味のまとまりや文脈で読みながら、ややゆっくりでも安定した速さで読める。	5 おおむね正確な表記ができる(複音・長音・拗音、促音やひらがな・カタカナの使い分け、既習でない漢字、一字下げ、接点、引用符、助詞の「は」「へ」など)。				
	高頻度の接続表現(例 ～から、～て、でも)を活用して、単文や簡単な複文を用いてはば選用なく自由に、話や絆けんことができる。	5 低学年レベル/日常で用いられる既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	5 「です・ます体」を使って文章を書き進められる。				
ステップ4	身近なことや心鬧のある話題について、まとまりがある話を自然な速さで聞き取ることができる。	5 日常的な会話で読み力が高い場合、黙読の方がよく理解できたり、言説が流暢でなくとも、このレベルのテキストを読んで理解できる。	5 日常的な会話で用いられる高頻度の語彙・表現や接続表現(例 ～から、～て、でも)を幅広く使って、単文や重文、簡単な複文などを用いて文章をはば選用なく自由にたくさん書ける。				
	相手や場面に応じて、「です・ます体」が使える。	5 喋きながら、あるいは書いた後に、読み返して自分の間違いに気づいて修正できる。	5 母語での書き力が高い場合、文法や語彙の選択に誤用があるが、単文や重文、簡単な複文を用いた文章を自由に書きれる。				
	※日常的な語彙・表現を使なじして、概念語彙・表現を補て語すことある(例「地球が汚染される」を表現するのに→「地球が大変になります。」)						
ステップ3	身近な場面や心鬧のある話題(学校や家庭での過去の活動や個人の経験など)について、既習の語彙・表現・文型を使って、単文や簡単な複文で話せる。	4 身近なトピックについて、日常で用いられる語句や單文・基本的な複文で書かれた、イラストや写真つきの短いテキストを、おおむね文部省や単語で区切りながらゆっくり読める。	4 表記や文法、語彙の選択に多くの誤用があるが、学生生活や日常生活で用いられる既習の語彙・表現や文型を使って、単文や重文、簡単な複文を用いて文章が書ける。				
	場面に応じて、必要な情報を含むやりとりができる(時間や場所を確認して約束する、情報や伝えて謝るなど)。	4 日常用で用いられる基本的な既習の漢字・語彙・表現がおおむねわかる。	4 文字の読み間違いに自分で気づいて訂正したり、單語や文法の誤用を考えながら読むことができる(意味がわからない語の前に止まずたり、戻ってきて考えてから語のまとまりで読んだり、区切り方を変える)。				
	※簡単な表現、言い回し(例 楽器を演奏する→楽器をやる)や母語を活用して、語彙・表現の不足を補て語すことがある。	4 指で文字をなぞりながら読むこともある。	4 母語の話す力が強い場合、表記には多くの誤用があるが、口語的な作文が書ける。				
ステップ2	身近な場面や心鬧のある話題について、誤用(形容詞や動詞など、添字の誤用や助詞)があつても、既習の基本的な語彙・表現・文型を使って、主に単文でなんとか意味の通じる話ができる。	3 身近なトピックについて、日常で用いられる基本的な語句や單文で書かれた、イラストや写真が中心の短いテキスト(DLA(読み))の「ハナの話」などを、かなりゆっくりと、おおむね文部省や単語で区切りながら読める。	3 自分自身にとて身近な場面や心鬧のある話題について、学校生活や日常生活で用いられる基本的な既習の語彙・表現や文型を使って、単文や重文で書かれて文章が書ける。				
	日常生活や学校生活で必要なりとりができる(お問い合わせする例「消しゴムを貸してください」、説明例「一緒に帰ろう」)。	3 日常用で用いられるごく基本的な既習の漢字がいくつか読める。					
	※指さしやジェスチャー、指示語、母語を活用して、語彙・表現の不足を補て語すことがある。	3 長音・拗音・促音を含むひらがな・カタカナで書かれた日常的な単語がおおむね読める。					
ステップ1	自分自身のことなど(家族の構成、好きなもの/こと、将来の夢、日常の出来事など)について、教師や友だちなどのゆっくりはつりしりの質問に、既習の語彙・句や単文、よく使われる表現を使って答えることができる。	3 指で文字をなぞりながら読む。					
	2 日常生活や学校生活で簡単な質問(例 移動教室「どこに行きますか?」)ができる。	2 長音・拗音・促音をのぞくひらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。					
	2 覚えたばかりの決まりった形を使ってやりとりができる(困りごとを伝える例「お腹が痛い」、お礼を言う例「ありがとうございます」)、許可を取る例「先生トイレに行ってもいいですか?」)。	2 カタカナがいくつか読める。					
ステップ1	※指さしやジェスチャー、指示語、母語を活用して、語彙・表現を交えながらなんとか伝えようとする。						
	1 自分自身(例 名前・学年・歳など)について、教師や友だちなどのゆっくりはつりしりの質問に、教師が單語で答えることができる。	1 自分の名前や学年・組、学校名など、自分に関係のある語がおおむねわかる。	1 ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら知っている単語を書くことができる。				
	1 基本的な接続(例「おはよう」)ができる。	1 連絡帳や時間割などで毎日使うマーク(例:宿題→宿、国語→国)がわかる。	1 母語の単語や表現をそのままひらがな・カタカナを使って書こうとする(例 かんどう(country))				
	1 ※指さしやジェスチャー、指示語(例「これ」)、会話表現(例「朝ご飯を食べる」)を表現するのに「いただきます」、母語を交えながらなんとか伝えようとする。	1 支援者と一緒に/支援者に統いて、1文字ずつの拾い読みができる。					
	1 囲りの状況を見たり、既存の知識を使って、相手が何を言っているのか推測したりよどむ。	1 ひらがながおおむね読める。					
1 聞いた内容を確認するため(教師や友だちが言ったことを繰り返したり、聞き取れない場合は、繰り返し言ってもらおうに催促したりする(例「もう一度」))。	1 聞いた内容を確認するため(教師や友だちが言ったことを繰り返したり、聞き取れない場合は、繰り返し言ってもらおうに催促したりする(例「もう一度」))。	1 日本語にひらがな・カタカナ・漢字の区別があることがわかる。					

出典:「ことばの発達と習慣のものさし ぱっとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)(https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf)を加工して作成

ことばの力のものさし

思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージ確認シート 縦版

思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージ 確認シート												
日本語と母語のうち、より高いほうの力で、おおまかに捉える						(立 学 校 年)			児童生徒名()			
年齢枠	聞く・話す		読む		書く		年齢枠	確認事項	前期 / 後期	年齢枠	確認事項	前期 / 後期
	確認事項	前期 / 後期	確認事項	前期 / 後期	確認事項	前期 / 後期						
ステージF 【評価・発展】期	高 校 中 3 段 階	中学生から高校の教科学習内容(抽象的な概念、実社会に現れる経験など)について、多角的・批判的視点をもった議論ができる。	中学生から高校生向けの文章作品において、テキストの表現を吟味しつつ、主題をとらえ、作品全体を鑑賞できる。 中学生から高校生向けの論説文において、構成や論理の展開に注目しつつ、テキストの裏腹に基づいて立派な論理で理解できる。 理解を深めるために、複数な読み解きストラテジーを活用できる(ステージA~Eに加えて、多角的・批判的視点から内容を評価する、比較表現を用ひ易く、書き手の表現選択に含まれた意図を読み取る、関連する他のテキストやIOTで重要な情報を収集し、該当や目的に応じて比較・統合する)。	書く前に、構成や長さ(情報の分量)、時間配分、読み手のことを考慮して計画を立て、自分からアウトラインをつくることができる。	書ながら、あるいは書いた後に、目的に応じて内容がより明確・効果的に伝わるように自分で修正することができます。	内容を効果的に伝えるために、構成や書き出し、組びを工夫し、適切な表現手法(比喩など)を選ぶことができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、目的に応じて情報を収集し、その真偽を吟味し、論理的な説明文が書ける。	目的に応じて、必要な資料を適切に引用し、客観的な論説を準備したり、反対への再反論を想定したりしながら多角的・批判的な視点のある意見文・論説文が書ける。	実体験・想像上の出来事について、文法的要素・設定・視点・構成・展開などを取り入れて、読み手に訴えかける創造的な作品(ショートストーリーや物語・詩など)が書ける。	書く前に、ペアやグループでの話し合いなどを通して、笑やキーワードなどを用いたアウトルайнを作ったりして書く準備ができる。	書いた後に、教師やクラスメートの助言を得て、一貫性に気をつけながら修正ができる(不要なものを削除する、順番を入れ替える、必要なものを追加するなど)。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、論理的で必要な情報が入った説明文がおおむね書ける。
		論理的構成を意識し、根拠に基づいた効果的なプレゼンテーションができる。										
		反証できる論理の展開を考え、説得力のある意見を述べることができる。										
		テキストに關注して、複数の文化(ものの見方、価値観を含む)を比べて、多角的・批判的に考え、評価できる。										
ステージE 【抽象】期	高 校 中 3 段 階	小学校高学年から中学の教科学習内容(抽象的な概念など)について、事実と意見の違いを意識しつつ、共通点や相違点を整理して議論できる。	小学校高学年から中学生向けの物語文において、テキストの表現について解釈しながら、作品の主題を理解できる。 小学校高学年から中学生向けの説明文において、テキストの裏腹に基づいて立派な論理を理解できる。 課題や目的に応じて、IOTを活用するなどして、必要な情報を収集できる。	書く前に、書く前に、構成や長さ(情報の分量)、時間配分、読み手のことを考慮して計画を立て、自分からアウトラインをつくることができる。	書ながら、あるいは書いた後に、目的に応じて内容がより明確・効果的に伝わるように自分で修正することができます。	内容を効果的に伝えるために、構成や書き出し、組みを工夫し、適切な表現手法(比喩など)を選ぶことができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、目的に応じて情報を収集し、その真偽を吟味し、論理的な説明文が書ける。	目的に応じて、必要な資料を適切に引用し、客観的な論説を準備したり、反対への再反論を想定したりしながら多角的・批判的な視点のある意見文・論説文が書ける。	実体験・想像上の出来事について、文法的要素・設定・視点・構成・展開などを取り入れて、読み手に訴えかける創造的な作品(ショートストーリーや物語・詩など)が書ける。	書く前に、ペアやグループでの話し合いなどを通して、笑やキーワードなどを用いたアウトルайнを作ったりして書く準備ができる。	書いた後に、教師やクラスメートの助言を得て、一貫性に気をつけながら修正ができる(不要なものを削除する、順番を入れ替える、必要なものを追加するなど)。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、論理的で必要な情報が入った説明文がおおむね書ける。
		議論を意識し、IOTなどを活用しながら聞き手にわかりやすいプレゼンテーションができる。										
		場面や相手に応じて適切な語彙や表現などを選択できる。										
		論理を示しながらおおむね一貫性のある意見を述べることができる。										
ステージD 【因果】期	中 2 ・ 中 3 ・ 小 5 段 階	複数の段落からなるまとまりのある話を要約して話せる。	小学校中学年向けの物語文・説明文において、段落の関係や内容の結びつき(因果関係・情景・心情の変化など)を理解できる。 理解を深めるために、複数な読み解きストラテジーを活用できる(ステージA~Eに加えて、テキスト模様を読み取る、自分の理解度を統合的にモニターリング、要約や言い換えをしながら読む、テキスト内から報酬を見つける)。	書く前に、書く前に、構成や長さ(情報の分量)、時間配分、読み手のことを考慮して計画を立て、自分からアウトラインをつくることができる。	書ながら、あるいは書いた後に、目的に応じて内容がより明確・効果的に伝わるように自分で修正することができます。	内容を効果的に伝えるために、構成や書き出し、組みを工夫し、適切な表現手法(比喩など)を選ぶことができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、目的に応じて情報を収集し、その真偽を吟味し、論理的な説明文が書ける。	目的に応じて、必要な資料を適切に引用し、客観的な論説を準備したり、反対への再反論を想定したりしながら多角的・批判的な視点のある意見文・論説文が書ける。	実体験・想像上の出来事について、文法的要素・設定・視点・構成・展開などを取り入れて、読み手に訴えかける創造的な作品(ショートストーリーや物語・詩など)が書ける。	書く前に、ペアやグループでの話し合いなどを通して、笑やキーワードなどを用いたアウトルайнを作ったりして書く準備ができる。	書いた後に、教師やクラスメートの助言を得て、一貫性に気をつけながら修正ができる(不要なものを削除する、順番を入れ替える、必要なものを追加するなど)。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、論理的で必要な情報が入った説明文がおおむね書ける。
		教科学習内容の基本的な概念(小学校中学年程度)について、因果関係を含めて説明できる。										
		教科学習内容の基本的な概念(小学校中学年程度)についての説明を聞いて理解できる。										
		集めた情報を示しながら、授業で発表できる。										
ステージC 【順序】期	小 4 ・ 中 3 ・ 小 3 段 階	具体的な事例とともに理由を挙げながら、自分の意見を述べることができる。	小学校低学年向けの物語文において、段落の関係や内容の結びつき(因果関係・情景・心情の変化など)を理解できる。 理解を深めるために、さまざまな読み解きストラテジーを活用できる(ステージA~Eに加えて、一般的な物語の構造に対する知識から読み取る、全体像を考慮しながら読む、タイトルや目次・図表から内容を推測する、内容について疑問を持ちながら読む、前後の文脈や持っている立場を活用して未知の語彙の意味を推測する、わからないことを辞書やネットで調べる、強いつうのこぼれの力を活用する)。	書く前に、書く前に、構成や長さ(情報の分量)、時間配分、読み手のことを考慮して計画を立て、自分からアウトラインをつくることができる。	書ながら、あるいは書いた後に、目的に応じて内容がより明確・効果的に伝わるように自分で修正することができます。	内容を効果的に伝えるために、構成や書き出し、組みを工夫し、適切な表現手法(比喩など)を選ぶことができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、目的に応じて情報を収集し、その真偽を吟味し、論理的な説明文が書ける。	目的に応じて、必要な資料を適切に引用し、客観的な論説を準備したり、反対への再反論を想定したりしながら多角的・批判的な視点のある意見文・論説文が書ける。	実体験・想像上の出来事について、文法的要素・設定・視点・構成・展開などを取り入れて、読み手に訴えかける創造的な作品(ショートストーリーや物語・詩など)が書ける。	書く前に、ペアやグループでの話し合いなどを通して、笑やキーワードなどを用いたアウトルайнを作ったりして書く準備ができる。	書いた後に、教師やクラスメートの助言を得て、一貫性に気をつけながら修正ができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、論理的で必要な情報が入った説明文がおおむね書ける。
		自分に關係のあることや体験したことについて、順序にそってくわしく話せる。										
		身近なことや経験したことに関する学習内容を聞いて話の流れを理解し、感想とその理由が言える。										
		身近なことや経験したことに関する学習内容についての話し合いの場で、教師や友達の話を聞いて発言できる。										
ステージB 【イマココから順序】期	小 2 ・ 中 3 ・ 小 1 段 階	対話による支援を得て、身近なことや経験したことについて、順序にそっておおまかに話せる。	小学校低学年半向けの物語文において、対話による支援を得て内容を順序にそっておおまかに理解できる。	書く前に、書く前に、構成や長さ(情報の分量)、時間配分、読み手のことを考慮して計画を立て、自分からアウトラインをつくることができる。	書ながら、あるいは書いた後に、目的に応じて内容がより明確・効果的に伝わるように自分で修正することができます。	内容を効果的に伝えるために、構成や書き出し、組みを工夫し、適切な表現手法(比喩など)を選ぶことができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、目的に応じて情報を収集し、その真偽を吟味し、論理的な説明文が書ける。	目的に応じて、必要な資料を適切に引用し、客観的な論説を準備したり、反対への再反論を想定したりしながら多角的・批判的な視点のある意見文・論説文が書ける。	実体験・想像上の出来事について、文法的要素・設定・視点・構成・展開などを取り入れて、読み手に訴えかける創造的な作品(ショートストーリーや物語・詩など)が書ける。	書く前に、ペアやグループでの話し合いなどを通して、笑やキーワードなどを用いたアウトルайнを作ったりして書く準備ができる。	書いた後に、教師やクラスメートの助言を得て、一貫性に気をつけながら修正ができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、論理的で必要な情報が入った説明文がおおむね書ける。
		身近なことや経験したことに関する学習内容を聞いておおむね理解し、ひとと程度の感想が言える。										
		自分が聞きたいことを質問できる。										
		対話による支援を得て、身近なことや経験したことについて、覚えている順序を断片的に話せる。										
ステージA 【イマココ】期	小 2 ・ 中 3 ・ 小 1 段 階	身近なことや経験したことについて、覚えている順序を断片的に話せる。	理解を深めるために、離れた読み解きストラテジーを活用する(ステージA,Bに加えて、頭の中でイメージ・絵・図・映像など)する。テキストと自分の体験を結びつける。原因・理由を考える。話を読んで先に読む。	書く前に、書く前に、構成や長さ(情報の分量)、時間配分、読み手のことを考慮して計画を立て、自分からアウトラインをつくることができる。	書ながら、あるいは書いた後に、目的に応じて内容がより明確・効果的に伝わるように自分で修正することができます。	内容を効果的に伝えるために、構成や書き出し、組みを工夫し、適切な表現手法(比喩など)を選ぶことができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、目的に応じて情報を収集し、その真偽を吟味し、論理的な説明文が書ける。	目的に応じて、必要な資料を適切に引用し、客観的な論説を準備したり、反対への再反論を想定したりしながら多角的・批判的な視点のある意見文・論説文が書ける。	実体験・想像上の出来事について、文法的要素・設定・視点・構成・展開などを取り入れて、読み手に訴えかける創造的な作品(ショートストーリーや物語・詩など)が書ける。	書く前に、ペアやグループでの話し合いなどを通して、笑やキーワードなどを用いたアウトルайнを作ったりして書く準備ができる。	書いた後に、教師やクラスメートの助言を得て、一貫性に気をつけながら修正ができる。	社会的・文化的な語彙や教科学習で扱う語彙について、論理的で必要な情報が入った説明文がおおむね書ける。
		対話による支援を得て、身近なことや経験したことについて、覚えている順序を断片的に話せる。										
対話による支援を得て、ごく簡単な質問(例:誰が、何が/を、どんな/どうした、など)に答えられる。												
ステージ	聞く・話す		読む		書く							
思考・判断・表現を支える包括的なことばの力の発達ステージ(日本語と母語の4技能の中で一番高いステージ)												
出典:「ことばの発達と習得のものさし ぱっとわかるまるわかりガイド」(文部科学省)(https://www.mext.go.jp/content/20250620-mxt_kyokoku-000042836_01.pdf)を加工して作成												

ことばの力のものさし

思考・判断・表現を支える包括的なことばの力(複数言語での力)の発達ステージ確認シート 横版

聞く・話す					読む			
ステップ	確認項目	前期	後期		確認事項		前期	後期
8	⑧ 我が学年内外の初歩的な概念の話。社会会に限らぬ言葉の話など(中学・高校レベル)を題材の初歩的な概念会話・表現を得意させて話せる。	/	/		8 中学生から高校生向けのテキスト(小説・文学作品、漫畫、新聞・雑誌の複数点、インターネット性情などの複数点)をまとめて読め、インターコネクト性情などの複数点を詳しく説く。		/	/
	⑨ このような話を自然な感じで聞き取ることができる。				8 中学・高校レベルの概念の話で「なぜ」「どうして」表現がおおむねわかる。			
7	⑩ 高いからか下のレベルの概念の筋道を理解しやすく終わる語の読み合せ(コロケーション)、例:〇件が良い、×件が悪いといった意味(高めや低い)のパリオーダーが話す。これを何回かに限る。				7 高校から中学生向けのテキスト(ラベル、情報文、子ども面接・算数、子ども向けインター・ネット情報など)(DLA(沿む)の自然物でなくなり)ドアや窓のままで開け放つて、玄関と通道で英語に会える。			
	⑪ より手や筆に近づいておおむね適切な書体を使える。				7 高校から中学生向けの正字(正音)・語彙・表現がおおむねわかる。			
6	⑫ 日本(例:フレーミング・シート)・フォーマルな箇所などに応じて語体(普通体、です・ます体)を選択して話せる。				8 非母語での読みが早い場合、音節が複数でもなく、このレベルのテキストを読んで理解できる。			
	⑬ 教科書内容の初歩的な概念の話(高学年・中学校レベル)を題材の初歩的な概念会話・表現を使つて話せる。				8 中学生向けのテキスト(やさしくて今まで卓立してあるので、少しの説教や振り張り名づけの文言や文章がはつきりした写真・イラスト)と同時に使う社会・経済的条件の説教(DLA(沿む))の「我がらしさ」や「自分たちのトピック」で、語彙・表現や文章筋が中学生レベルのテキストを、おおむねや自然のまままで区切って英語に会える。			
5	⑭ このような話を自然な感じで聞き取ることができる。				7 高校から中学生向けの正字(正音)・語彙・表現がおおむねわかる。			
	⑮ 様々な技術表現や単語などを用いて、まとまり(創造性)がある話ができる。				8 中学生向けの正字(やさしくて今まで卓立してあるので、少しの説教や振り張り名づけの文言や文章が複数でもなく、このレベルのテキストを読んで理解できる。			
4	⑯ 教科書内容の初歩的な概念の話(高学年・中学校レベル)を題材の基本的な概念会話・表現(中学校レベル)で使用して話せる。				6 中学生レベルの概念の話(正字・語彙・表現がおおむねわかる)。			
	⑰ このような話を少しゆきりの速さで聞き取ることができる。				6 聞きができる。			
3	⑱ 自分が場面や想いのある話について、日常的な会話・表現を相手にくつけて、対話したり自分から話したりできる。				5 非母語での読みが早い場合、無理の方がよく理解できたり、音節が複数でもなく、このレベルのテキストを読んで理解できる。			
	⑲ 高度度の技術表現(例:～から、～で、～に)で単語を活用して、單文や複数の文書を用いてほぼ運用自如に、話を続けることができる。				5 日常に用いられる基本的な概念の話(正字・表現がおおむねわかる)。イラストや写真が複数点(DLA(沿む))があつてね、裏表紙など)や、年齢適応の大きさで、語彙・表現で文を理解が複数点(中学校レベル)の「我がらしさ」や「自分たちのトピック」で、語彙・表現や文章筋がおおむねや自然のまままで区切って英語に会える。			
2	⑳ 自分がことなかれの会話の場、好きなもの・性のもの・日常生活などについて、教師や友だらなどのゆきりはつきりした質問(例:「誰が金の匂いを嗅ぐ?」)や身振りを用いて、語彙・表現の手足をつけて話すことができる。				5 聴きがいい・自分で用ひられる概念の話(正字・語彙・表現がおおむねわかる)。			
	㉑ 日常生活で学習する日本語(例:「朝ごはん」)や身振りなどで、誰が何を食べるか等の手足をつけて話すことができる。				4 非母語での読みが早い場合、無理の方がよく理解できたり、音節が複数でもなく、このレベルのテキストを読んで理解できる。			
1	㉒ 簡単な会話(例:「おはよう!」)や身振りなどで、誰が何を食べるか等の手足をつけて話すことができる。				4 おおむね日本語(例:「おはよう!」)や身振りなどで話す。			
	㉓ おはよう!」や「さようやさい」、「おはよう!」(例:「おはよう!」)、音韻規則(例:「おはよう」を食べる)を基礎とするのに「いただきます!」、荷物を交換しながらとことんと向きあうことができる。				4 日常に用いられる基本的な概念の話(正字・表現がおおむねわかる)。			
2	㉔ おはよう!」や「さようやさい」、「おはよう!」(例:「おはよう!」)、音韻規則(例:「おはよう」を食べる)を基礎とするのに「いただきます!」、荷物を交換しながらとことんと向きあうことができる。				3 文字の読み方(例:「おはよう」)や、單文(例:「おはよう」)が複数点(中学校レベル)で書かれた日常的な単語がおおむね読める。			
	㉕ おはよう!」や「さようやさい」、「おはよう!」(例:「おはよう!」)、音韻規則(例:「おはよう」を食べる)を基礎とするのに「いただきます!」、荷物を交換しながらとことんと向きあうことができる。				3 日常に用いられる基本的な概念の話(正字・表現がいつばら読める)。			
1	㉖ おはよう!」や「さようやさい」、「おはよう!」(例:「おはよう!」)、音韻規則(例:「おはよう」を食べる)を基礎とするのに「いただきます!」、荷物を交換しながらとことんと向きあうことができる。				3 音韻の特徴(例:「いひら」)がおおむねできる。			
	㉗ おはよう!」や「さようやさい」、「おはよう!」(例:「おはよう!」)、音韻規則(例:「おはよう」を食べる)を基礎とするのに「いただきます!」、荷物を交換しながらとことんと向きあうことができる。				3 曲字(文字をひだりながら読む)。			
2	㉘ おはよう!」や「さようやさい」、「おはよう!」(例:「おはよう!」)、音韻規則(例:「おはよう」を食べる)を基礎とするのに「いただきます!」、荷物を交換しながらとことんと向きあうことができる。				2 いくつもの言葉の意味を読み取り、複数の意味を用いておかれると、イラストや写真が中心の知りテキスト(DLA(沿む))の「うたふとく」として、2-3文字ずつの組み込みや單語(中学校レベル)がなんとかわかる。			
	㉙ 長音・複音・複音をそのひだらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。				2 カタカナをひくつか認めめる。			
1	㉚ 長音・複音・複音をそのひだらがなで書かれた日常的な単語がおおむね読める。				1 自分の名前(学年・姓・学年など)について、教師や友だらなどのゆきりはつきりした質問(例:「おはよう!」)、おはよう!」(例:「おはよう!」)がおおむねわかる。			
	㉛ 基本的な会話(例:「おはよう!」)ができる。				1 音韻規則(例:「おはよう!」)や時間感覚などで毎日使うマーク(前・後・前・後・1回)がわかる。			
1	㉜ 朝日の昇る方向に見たり、現在の状況を使って、相干性が何を云っているのか推測したりしようとする。				1 友達と一緒に「おはよう」で話して、1文字ずつの物語が読みができる。			
	㉝ 朝日の昇る方向に合わせて有り物語(例:養生書)を取り扱う。				1 ひらがながおおむね読める。			
1	㉞ 朝日の昇る方向に合わせて有り物語(例:養生書)を取り扱う。				1 日本書(ひがにがな・かかなか・すの)区別があることがわかる。			

2025年4月 文部科学省農林・水産の整備と開拓のための、ばつとかかる資源わたりガイド（農業）

ステップ	確認項目	前期	後期
		/	/
8	❸ 指導的な会話指導・転換法演習・溝通法を使って小学生・高校生レベルの添削文や添え文、講評文、創作的な作品などが書ける。		
	❹ 書きこぼらしや文法(文多め組や名詞句の活用など)、及び個性的な表現法(会場など)を使用して文章が書ける。		
7	❺ 稼働などの手前や筆に迷うことなく適切に使って文章が書ける。		
	❻ 高度をかかげながらペースの速い文章の構成やくわしく使われる語の読み合わせ(コロケーション)といった表現のレパートリーが豊富。これでさらに読み物語に入る。		
6	❼ 高度をかかげながらペースの速い文章の構成やくわしく使われる語の読み合わせ(コロケーション)といった表現のレパートリーが豊富。これでさらに読み物語に入る。		
	❽ さざなぎの接続表現、接続語などを使って、ある段程度や段落のまとまり(私属性)がある文章が書ける。		
5	❾ 口頭的な表現(例: ちづれ、すこい)が豊富ともいえが、中学生レベルのキリスト教で使用される禮拝会話や転換法演習・添え文、添削文など、語感が豊か、余ったことがない(利害)や書きこぼらしい支體(例: 行ってき、見えてーでーす)などを扱えるなら文章が書ける。		
	❿ だ体で体の体を使って文章が書ける。		
4	⓫ 文法での書き方が多い(筆、説明文であっても書きこぼらしい文章が書ける)。		
	⓬ おおむね筆記録でできる(筆記・音読・発音・音韻やひらがな・カタカナの使い分け、既読でじゆくのある漢字、一字下げ、句読点、引用文、脚注の(は)引け)(へ)な)。		
3	⓭ 「です」と「ます」を使って文章を書き進められる。		
	⓮ 日常的な会話で用いられる禮拝の会話・高齢者と接する・家庭内と接する(例: ~から、~て、で)を幅広く使って、單文や複文、簡単な複文などで(例: うまい)を理由で(例: うまい)に自分に(例: うまむ)する。		
2	⓯ 書きながら、あるいは書いたときに、読み進めて自分の頭の中に(例: あわせ)算术ができる。		
	⓰ ㉚ 会話での書き方が多い(筆、文法や語彙の意識に留意があるが、单文や複文、簡単な複文を用いた文章を自由に書ける)。		
1	⓱ 書き方や文法、語彙の頻度に多くの活用があるが、口頭的な作文が書ける。		
	⓲ 自由自在に(例: おおむね)筆記で(例: おおむね)用いられる経緯の会話・表現や文書を使って、單文や複文、簡単な複文などで(例: うまい)を理由で(例: うまい)に自分に(例: うまむ)する。		
2	⓳ モデル文を参考にして、自分自身にとって身近な経験(自分や家族の紹介、好きな物、休みの日、将来の夢など)についていくつか文が書ける。		
	⓴ ひらがな・カタカナをおおむね区別して確認しながら書いている単語を書くことができる。		
1	⓵ 単語の単語や英語そのままひらがな・カタカナを使って書こうとする。(例: かんとり(country))		

ステップ

【中3～高校段階】
日本語固有の知識・技能の習得ステップ
確認シート

市立学校
年組